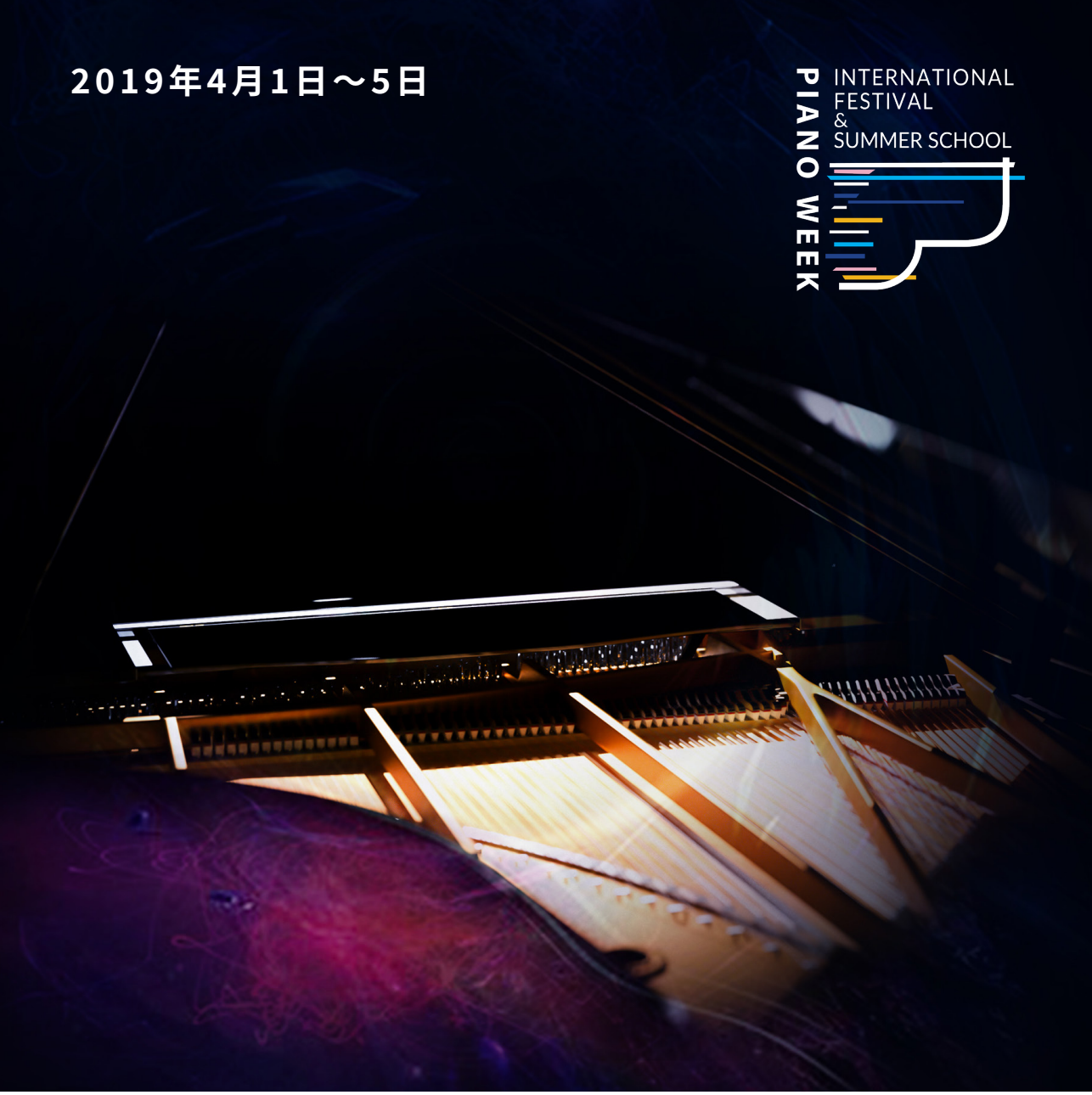
2019年4月1日～5日

PIANO WEEK
INTERNATIONAL FESTIVAL & SUMMER SCHOOL



フェスティバル・コンサート

シンフォニー・サロン

WWW.PIANOWEEK.COM

A few words from the festival directors

We are proud to present the inaugural edition of PIANO WEEK Tokyo, an important and long-awaited addition to the festival's existing locations across Europe & Asia. As a touring classical music enterprise with residencies in the UK, Germany, Italy and China, we are thrilled to welcome participants from the UK, Japan, Hong Kong and Taiwan who are joining us for an intensive week of music making. PIANO WEEK's appearance in Tokyo marks the beginning of our collaboration with Symphony Salon. We are also extremely grateful to Steinway & Sons Japan, who are hosting one of our participant concerts in their showroom.

Our series of solo and duet recitals held at Symphony Salon are given by an acclaimed faculty of concert pianists. All artists performing throughout the week are highly experienced as pianists and pedagogues and they have all been giving master classes and lessons to our participants during the festival. This makes the summer school part of PIANO WEEK a truly unique experience for our participants and audience members alike.

We hope that you enjoy our series of evening concerts in Symphony Salon. We would love to welcome you back to Tokyo in 2020 or at one of our summer residencies in Europe later this year. If you would like to know more about what we do, please see the details at the back of this concert programme.

Samantha Ward
Artistic Director & Founder

Maciej Raginia
Creative Director

フェスティバルディレクターの挨拶

私たちは、これまでヨーロッパとアジア諸国で開催してきたピアノ・ウィークを、ここ東京で初めて開催できることを大変誇らしく思っております。イギリス、ドイツ、イタリア、中国に拠点を置く国際ピアノフェスティバル「ピアノ・ウィーク」は、1週間開催される音楽の祭典に、イギリス、日本、香港、台湾からの参加者を歓迎できることを大変嬉しく思っております。ピアノ・ウィークが東京で初めて開催されることで、シンフォニー・サロンとのコラボレーションも始まりました。ショールームにて私たちの参加者のうち1人のコンサートを主催してくださるスタインウェイ・ジャパンにも感謝申し上げます。

シンフォニー・サロンで開催される一連のソロ/デュエット・リサイタルは、高い評価を誇るコンサート・ピアニストの教授陣によって披露されます。週を通して演奏を披露するすべてのアーティストが、ピアニストとして、そして教育者としての豊富な経験を持ち、フェスティバル開催中、参加者に対しマスタークラスやレッスンを提供いたします。これにより、サマースクールはピアノ・ウィークの一部として、参加者にとっても、観客にとっても、非常にユニークな体験を提供できると思っております。

シンフォニー・サロンで開催される一連のイブニングコンサートをぜひお楽しみください。2020年に再び東京で、あるいは今年後半にヨーロッパのサマー・レジデンスにて開催されるフェスティバルにて、皆様にお会いできることを楽しみにしております。私たちの活動の詳細については、コンサートプログラムの裏面をご一読ください。

サマンサ・ウォード
芸術監督および創設者

マチェック・ラギニア
リエイティブ・ディレクター

井尻愛沙 リサイタル

Melanie Spanswick (1969-)

Aisa
Frenzy

Frédéric Chopin (1810-1849)

Nocturne in c minor Op. 48 No. 1
Ballade No. 4 in f minor Op. 52

Frédéric Chopin (1810-1849)/Franz Liszt (1811-1886)

Six Polish Songs S. 480
Moja pieszczotka/My darling (No. 5)

Franz Liszt (1811-1886)

Ballade No. 2 in b minor S. 171

コンサート時間
演奏は休憩なしの約1時間です。

チケット: ¥3000/¥3500
フェスティバル参加者は無料で入場できます。
www.pianoweek.com/whats-on | SYMPHONY と共同で

2019年4月1日 | シンフォニー・サロン | 午後7時

リサイタルについて

日本のピアニストの井尻愛紗が、イギリスの作曲家メラニー・スパンスウィックの2作品でリサイタルを開催する。繰り返し激しくピアノの鍵盤を上下させる楽曲『フレンジー』は、16分音符の情熱渦巻くような音色を奏で、やがて今夜の演奏者に捧げられ、2018年に書き上げられた『愛紗』によって、表情豊かでかすかに感傷的な音色へと移り変わる。続いてショパンが晩年に作曲した夜想曲ハ短調が披露され、厳粛で悲しげなオープニングに始まり、シンプルなメロディーラインを支えているカスケードコードとダブルオクターブが徐々に勢いを持ち始める。ショパンは、バラード第4番ヘ短調でこのラプソディックな特徴をさらに取り入れ、ソナタ形式と変奏曲形式をうまく組み合わせ、わずか1年でその楽曲を完成させた（1842年）。ショパンの中で最も優れた楽曲の1つである『私の愛しい人』は、フランツ・リストの編曲による非常にシンプルでありながらエキサイティングな音の世界をもって提供される。このアダム・ミツキェヴィチの詩であるMoja Pieszczotka（『私の愛しい人』）は、ある男性の最愛の女性に対する求愛の物語である。リストの最も優れたピアノ楽曲の1つと見なされている、バラード第2番ロ短調がリサイタルのクライマックスを形作り、その表現力豊かな語彙と共に、力強い分割オクターブときらめくようなスケールにピアニストの高度な技術が冴え渡る。

井尻愛沙について

東京オペラシティで絶賛された2010年のデビューから2017年のニューヨーク、カーネギーホールでのリサイタルまでの間に、井尻愛沙は同世代の受賞ピアニストたちの一人としての名声を確立し、「彼女のヨーロッパ的な洗練された素養、激しい情熱、詩的な感覚が、芸術的雰囲気を作り上げている（『レコード芸術』、東京）」と評されてきた。日本で生まれ、15歳でワルシャワ・フィルハーモニー・ホールにて、コンチェルトソリストとしてデビュー。続いてストックホルムのコンサートハウスでは、リサイタル・デビューを飾った。以来、アメリカ、イギリス、韓国、中国、そしてヨーロッパ全土で演奏を披露している。ウィグモア・ホール、カドガン・ホール、セント・ジョンズ・スミス広場、St.George's Bristol、Fairfield Halls、St.Martin-in-the-Fields、紀尾井ホール（東京）、いずみホール（大阪）、ウィンブルドン国際音楽祭'15、Three Choirs Festival '14、Lichfield Festival '13など、数々の国際音楽祭やコンサートホールにてピアノソロリサイタルや室内楽コンサートを開催。彼女のコンサートは、クラシックFM、BBCテレビ1、BBCラジオ3、セルビア・ラジオテレビ、ラジオ・ベオグラード、ポルスキー・ラジオ、CNN ワールドワイド等で放送された。川瀬健太郎、大阪センチュリー交響楽団（指揮：ケン・シェ）、オーケストラ・ムジカ・チェレステ（指揮：篠崎靖男）、オリオン交響楽団 (指揮：Toby Purser)、ブーシー交響楽団(指揮：George Vass)、GSMD交響楽団（指揮：George Benjamin）、ウィーン・サロン・オーケストラ（指揮：ウド・ツヴェルファー）など、国際的に著名な指揮者との共演経験を持つ。2011年、デビュー・アルバム『Pilgrimage』（Schumann＆Lisztのピアノ作品）をNATレコードよりリリース。2016年には、『Ailes d'amour』（Prokofievのピアノ作品）をリリースした。史上最年少で滋賀文化奨励賞を受賞。スタインウェイの公式アーティストであり、東京国際ピアノ協会の芸術監督としても活躍している。

サマンサ・ウォード＆マチェック・ラギニア のリサイタル

Gabriel Fauré (1845-1924)

Dolly Suite Op. 56
Berceuse
Mi-a-ou
Le Jardin de Dolly
Kitty-Valse
Tendresse
Le Pas Espagnole

Johannes Brahms (1833-1897)

Sixteen Waltzes Op. 39

Astor Piazzolla (1921-1992)/Roberto Russo (1966-)

Contrabajeando

Astor Piazzolla (1921-1992)/Peter Petrof (1961-)

Oblivion

Astor Piazzolla (1921-1992)/Khatia Buniatishvili (1987-)

Libertango

コンサート時間
演奏は休憩なしの約1時間です。

チケット: ¥3000/¥3500
フェスティバル参加者は無料で入場できます。
www.pianoweek.com/whats-on | SYMPHONY と共同で

2019年4月3日 | シンフォニー・サロン | 午後7時

リサイタルについて

4手レパートリーの折衷的なプログラム。フェスティバルのディレクターであるサマンサ・ウォードとマチェック・ラギニアはフォーレとブラームスの有名な作品を、アルゼンチン・タンゴの作曲家でありバンドネオン奏者でもあるアストル・ピアソラの最も象徴的な作品を新しくピアノ編曲したものと組み合わせて演奏する。まずは、ドビュッシーとフォーレが共に好意を寄せていたフランス人歌手エンマ・バルダックの娘、エレーヌ・バルダックのためにフォーレが書いた6つの組曲（『ドリー』）で始まる。サマンサとマチェックは、作曲家の気まぐれなタイトルの背景にある、子供時代を思い出させるかのような鮮やかな世界にいざなってくれる。ブラームスのワルツ集作16は、もともと1865年にウィーンでピアノ連弾用として書かれ、特に1780年代にオーストリア帝国で流行した社交ダンス用のワルツを意識している。シンプルな2部形式で、テンポとテクスチャーを対比させながら、それぞれの作品が複雑な調性を駆使し、ワルツ独特の描写を聴かせてくれる。最後は、アストル・ピアソラの作品の中から3曲のピアノ編曲で締めくくられる。ピアソラは、ジャズ、不協和音、複雑なハーモニーや即興演奏の要素をバロックのパッサカリアと融合させることで、タンゴを誰も想像のつかなかった音楽へと昇華させた。

サマンサ・ウォード
芸術監督、創設者

サマンサ・ウォードは、イギリス、中国、日本、ドイツ、イタリア、フランス、ギリシャ、マカオの各地で幅広く演奏し、2007年にロンドンのウィグモア・ホールでソロ・デビューを果たした。Making Music Philip and Dorothy Green Award for Young Concert Artists、ヨーロッパ・ベートヴェン協会国際コンクール、ヘイスティングス国際協奏曲コンクール、Worshipful Company of Musicians' Maisie Lewis Young Concert Artists Fund Awardなど、数々のコンクールで1位を受賞。2013年8月には、年齢や能力を問わず全レベルのピアニストを対象とした国際ピアノフェスティバルおよびサマー・スクールであるピアノ・ウィークを発起。ピアノ・ウィーク2015、2016、2017、および2018では、世界で最も著名なピアニストの一人であるスティーヴン・コヴァセヴィチと共演を果たした。今年は、国際的に評価の高いオーストラリアのピアニスト、レスリー・ハワードと、夫でありピアノ・ウィークの共同ディレクターであるマチェック・ラギニアと共演する。2017年に、ピアノ・ウィークはSteinway＆Sons Asia Pacificとのコラボレーションを開始し、続いて2018年にはSteinway＆Sons UKとのコラボレーションも実現された。昨年10月、フェスティバルは北京のスタンウェイ・ホールでショーケースコンサートを開催し、同様のイベントが2019年4月に東京のスタンウェイ・ホールで開催される。2018年10月、アジアツアーの一連の流れの中でショット・ミュージック社のためにセミナーを行い、その後マカオ、マレーシア、インドネシア、中国、シンガポールでマスタークラス、ワークショップ、公演を行った。2018年11月、アジアに招聘され、香港青少年ピアノコンクールでマチェックと共に陪審員を務めた。ショット・ミュージック社の専属アーティスト兼作家であり、最初のソロアルバムは2018年にQuartz Musicによりリリースされた。チータム音楽院でジョアン・ハビル、レスリー・リスコウィツ、アリーシャ・フィーデルキーウィツに師事。

サマンサ・ウォード&マチェック・ラギニア のリサイタル

Gabriel Fauré (1845-1924)

Dolly Suite Op. 56
Berceuse
Mi-a-ou
Le Jardin de Dolly
Kitty-Valse
Tendresse
Le Pas Espagnole

Johannes Brahms (1833-1897)

Sixteen Waltzes Op. 39

Astor Piazzolla (1921-1992)/Roberto Russo (1966-)

Contrabajeando

Astor Piazzolla (1921-1992)/Peter Petrof (1961-)

Oblivion

Astor Piazzolla (1921-1992)/Khatia Buniatishvili (1987-)

Libertango

コンサート時間
演奏は休憩なしの約1時間です。

チケット: ¥3000/¥3500
フェスティバル参加者は無料で入場できます。
www.pianoweek.com/whats-on | SYMPHONY と共同で

2019年4月3日 | シンフォニー・サロン | 午後7時

リサイタルについて

4手レパートリーの折衷的なプログラム。フェスティバルのディレクターであるサマンサ・ウォードとマチェック・ラギニアはフォーレとブラームスの有名な作品を、アルゼンチン・タンゴの作曲家でありバンドネオン奏者でもあるアストル・ピアソラの最も象徴的な作品を新しくピアノ編曲したものと組み合わせて演奏する。まずは、ドビュッシーとフォーレが共に好意を寄せていたフランス人歌手エンマ・バルダックの娘、エレーヌ・バルダックのためにフォーレが書いた6つの組曲（『ドリー』）で始まる。サマンサとマチェックは、作曲家の気まぐれなタイトルの背景にある、子供時代を思い出させるかのような鮮やかな世界にいざなってくれる。ブラームスのワルツ集作16は、もともと1865年にウィーンでピアノ連弾用として書かれ、特に1780年代にオーストリア帝国で流行した社交ダンス用のワルツを意識している。シンプルな2部形式で、テンポとテクスチャーを対比させながら、それぞれの作品が複雑な調性を駆使し、ワルツ独特の描写を聴かせてくれる。最後は、アストル・ピアソラの作品の中から3曲のピアノ編曲で締めくくられる。ピアソラは、ジャズ、不協和音、複雑なハーモニーや即興演奏の要素をバロックのパッサカリアと融合させることで、タンゴを誰も想像のつかなかった音楽へと昇華させた。

マチェック・ラギニア
クリエイティブ・ディレクター

ポーランドのピアニストであるマチェック・ラギニアは、イギリスを始めとする海外でソリストとして活躍。ヨーロッパやアジア諸国で演奏経験がある。ポーランドのテレビ（TVP 1、TVP 2、TV Polonia）に度々出演し、多数の国際ピアノコンクールで受賞。過去10年に渡り、「強い芸術的個性」（Tydzien Polski）、「ピアノマスター」（Markische Allgemaine）、「絶妙な色調」（Potsdamer Neueste Nachrichten）などと称されてきた。ゲヴァントハウス、メンデルスゾーン・ザール（ライプツィヒ）、メンデルスゾーン・ハウス（ライプツィヒ）、ハノーファー音楽演劇大学、Niedersächsischer Landtag（ハノーファー）、Schloss Glienicke（ポツダム）、キングス・カレッジ（ケンブリッジ大学）、セント・ジョン・スミス広場、St Martin-in-the-Fields（ロンドン）、オーディトリアム（ザラゴザ）、Nuevo Casino Principal（パンプローナ）、トッパンホール（東京）など、世界各地でコンサートを開催。2016年には、クリエイティブディレクターとして妻サマンサ・ウォードが発起したピアノ・ウィークに参加。近年は、香港、マカオ、中国でセミナーを開催、コンクールの審査員も務めている。2019年のコンサートシーズンのハイライトは、パーシー・グレインジャーによる作品の、レスリー・ハワードとサマンサ・ウォードとの共演である。ポーランドでアレクサンドラ・ワルシャック、クリスティーナ・フィリポフスカの両氏に師事し、その後ロンドン王立音楽大学で名ピアニスト、ケヴィン・ケナー氏に師事した。2008年、シティー・オブ・ロンドン・コーポレーションより奨学金を得てギルドホール音楽院の修士課程を修了。ジョーン・ハビル氏に師事。また、ロバート・レビン、ハリーナ・チェルニー・ステファンスカ、エリザベス・レオンスカヤの各氏に師事。その関係は今日まで続いている。ショット社のレコーディングアーティスト。

スタインウェイ&サンズ ショーケースで公演するピアノ・ウィークの参加者

2019年4月4日 | スタインウェイジャパン | 午後6時

コンサート時間
演奏は休憩なしの約1.5時間です。

入場無料
見学の際は、administrator@pianoweek.com までご連絡ください

www.pianoweek.com/whats-on | STEINWAY & SONS と共同で

公演内容

6年前に音楽フェスティバルが初めて開催されて以来、卓越性、親しみやすさ、音楽への情熱、そして想像力がピアノ・ウィークのDNAを形作ってきました。年齢や能力を問わず、あらゆるピアニストたちに対して広く門戸を開き、コンサートピアニストや一流の教育者による世界クラスの授業を参加者に提供することで、インスピレーションを掻き立てるミュージシャンや音楽愛好家、ピアノ愛好家等のコミュニティーが世界中に瞬く間に広がりました。

スタインウェイ＆サンズ東京のショーケースでは、ピアノ・ウィークコースに参加できないオーディエンス・メンバーに対し、音楽作りの楽しさや参加者間で共有される相互支援のあり方など、ピアノ・ウィークの一部の雰囲気を体験できる貴重な機会をご提供致します。

ライブパフォーマンスはあらゆる学習プロセスにおいて最も重要であり、ピアノの技術を習得するにあたっては、尚更不可欠であると私たちは考えています。今夜開かれるコンサートは、私たちの参加者が日々受けるマンツーマンレッスンやデュエット授業、ハーモニーのマスタークラスや、リスニング、初見演奏、舞台での発表などと並行して、参加者が観客の前で演奏を披露する5つの機会のうちの1つとなります。

年齢や能力を問わず参加者を募っているため、参加者は初心者から上級者まで、そしてアマチュアから音楽院生まで多岐にわたります。あらゆる生徒のニーズに合わせて授業をオーダーメイドする私たちのアプローチは、どんなレベルであろうと、誰もが目標に向かって前進できる環境を作り出すことを目標としています。

木曜日の夜に開催されるピアノ・ウィークのショーケースには、参加者による演奏だけでなく、サマンサ・ウォード、マチェック・ラギニア、根岸由起、井尻愛沙など、プロのピアニストによる演奏もお楽しみいただけます。

ショールームにて私たちの参加者のうち1人のコンサートを主催してくださるスタインウェイ・ジャパンにも感謝申し上げます。

アクセス方法

スタインウェイ・ジャパン株式会社

東京都品川区東品川2-6-4

寺田倉庫G1ビル

根岸由起リサイタル

2019年4月5日 | シンフォニー・サロン | 午後7時

Franz Schubert (1797-1828)

Sonata No. 18 in G Major D894
Molto moderato e cantabile
Andante
Menuetto: Allegro moderato - Trio
Allegretto

Frédéric Chopin (1810-1849)

Sonata No. 2 in B flat minor Op. 35
Grave – Doppio movimento
Scherzo
Marche funèbre: Lento
Finale: Presto

Melanie Spanswick (1969-)

Enigma (dedicated to Yuki Negishi)
World Premiere

コンサート時間
演奏は休憩なしの約1時間です。

チケット: ¥3000/¥3500
フェスティバル参加者は無料で入場できます。
www.pianoweek.com/whats-on | SYMPHONY と共同で

リサイタルについて

日本人コンサートピアニスト、根岸由起（ネギシユキ）がピアノソナタ ト長調 D894 から始まる情熱的な曲目を披露する。1826年10月に完成したその楽曲は、シューベルトが作曲家人生において発表した最後のソナタである。ロベルト・シューマンがこのジャンルにおけるシューベルトの全作品の中で「最も完璧な構成と構想」として評価し、「幻想曲」と呼ばれることもある。この題名は、トビアス・ハスリンガーによる1827年の第一版より由来している。この後に、全てのピアノ名曲の中で最も偉大なソナタの一つとして考えられている作品、変ロ短調　ショパンのソナタが続く。1839年ショパンがノアンのジョルジュ・サンドの邸宅に住んでいた時に作られたこの作品は、複雑なハーモニーと華々しいピアノ技巧の純粋な表現が用いられ、その作品は彼のベルカント様式を用いたピアノ作曲を象徴している。ソナタ第3楽章は、ショパンの有名な葬送行進曲で構成されており、最も人気のある彼の曲想の一つとして残されている。リサイタルはエニグマの世界最初の演奏、メラニー・スパンスウィックによる小規模プログラム楽曲、そして根岸由起に捧げられる楽曲で締めくくられる。ミニマリズムにインスパイアされ、フルサイズのキーボードを採用し、その空気と夢のようなサウンドの世界の中で弦楽器の贅沢な響きを披露する。

根岸由起

根岸友紀は、優雅で、情熱的で、高度な技術を持つピアニストとしての地位を確立し、審査員、教育者、研究家として、イギリスだけで400以上のコンサートでの演奏経験を持つ。オランダ（コンセルトヘボウ）、フランス、ドイツ、スイス、イタリア（フェスティバル・ディ・ロンドラ）、ルーマニア、日本、中国、アメリカなどの国々で毎年約30のコンサートに出演。彼女の演奏は、BBCラジオ3、チャンネル4だけでなく、オランダ、ポーランド、ルーマニア、フランス等のテレビやラジオで放送されている。昨シーズン、ピアノ・ウィークの一環として、北京でリサイタルとマスタークラスを提供。東京のトッパンホール、ロンドンのセント・ジョン・スミス広場、セント・ジェームズ・ピカデリー、Absolute Classics主催のDumfries＆Galloway International Arts、その他イギリスにある数々の会場でリサイタルを行う。サセックス国際ピアノコンクールの発起以降、アルトゥール・ピサロ（Leedsコンクール第1位、1990年）、Vanessa Latarche（英国王立音楽大学学部長）、Ian Fountain（英国王立音楽大学教授）、Julian Jacobson（英国王立音楽大学教授）、そして伝説的なピアニストであるイディル・ビレット、Chee-Hung Toh、Dennis Leeと共に、4回に渡り審査員を務めた。2019年6月には、第2回ウィンブルドン国際ピアノコンクールの審査員を務める。東京で生まれ、ニューヨークで5歳の時からピアノを弾き始めた。10歳でジュリアード音楽院予備科に名誉奨学生として入学。16歳のとき、園田高弘賞ピアノ・コンクールで最年少奨励賞を受賞。2000年、ジュネス・ミュジカル国際ピアノ・コンクールでは第2位を受賞した。室内楽の演奏家として、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団との共演を果たしている。

find
wha
we

out

t

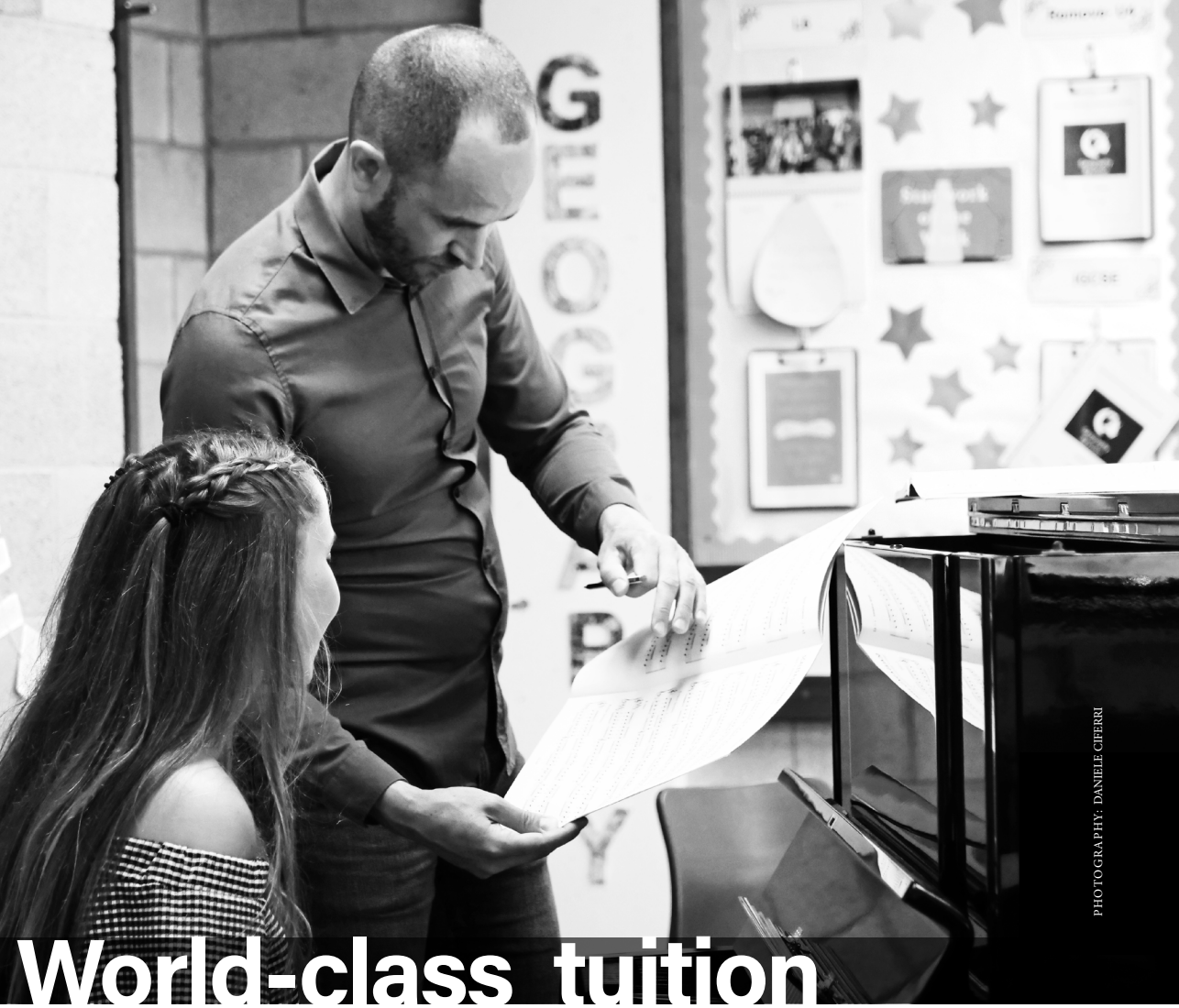
do

With a feeling of ever-present passion and love for music permeating the festival's atmosphere, PIANO WEEK is second to none amongst piano courses and festivals, boasting an unparalleled intensity, a holistic approach to piano playing and a bespoke and imaginative programme. Whether you choose our standard or intensive option, you will receive between 24 and 29 hours of tuition and advice from top professionals in the music industry.

PIANO WEEK is second to none amongst piano courses and festivals, boasting an unparalleled intensity, a holistic approach to piano playing and a bespoke and imaginative programme.

Join us and be immersed in a multitude of master classes, one-to-one and duet lessons as well as receive coaching on sight-reading, listening, composition, harmony, theory and memorisation. You will be able to attend recitals given by our acclaimed faculty of international concert pianists and there will also be many chances for you to perform as a soloist and in part of a duo throughout the week.

PHOTOGRAPHY: DANIELE CIFERRI



PHOTOGRAPHY: DANIELE CIFERRI

World-class tuition

We have welcomed world-renowned guest artists such as Stephen Kovacevich, Leon McCawley, Chenyin Li and David Fung.

In your spare time you can go swimming, work out or take part in a yoga class at one of our UK venues. In Italy, you can experience the Umbrian countryside as well as Foligno's fine restaurants or come to Germany and explore the beautiful town of Sankt Goar situated on the river Rhine. Since the inception of the festival, we have welcomed world-renowned guest artists such as Stephen Kovacevich, Leon McCawley, Chenyin Li and David Fung. As a close-knit community of people, PIANO WEEK has inspired many new friendships and collaborations over the years.

Moreton Hall School UK

14 - 21 Apr 2019
21 - 28 Jul 2019
28 Jul - 4 Aug 2019
15 - 22 Dec 2019

Now in its fourth consecutive season in Shropshire, PIANO WEEK returns to Moreton Hall School once in the spring and twice in the summer, alongside introducing a new winter edition in 2019. The festival is full of high calibre performances from the in-house team of concert artists and it runs in conjunction with the course, which is open to pianists of any age and ability.

Residential participants are offered modern twin study bedrooms with bathroom facilities (limited single rooms and en suite accommodation are available upon request at an additional cost). All meals and snacks are provided and any dietary needs catered for. Moreton Hall School is situated just one hour from Birmingham, Manchester and Liverpool international airports and is within easy reach of the historic towns of Shrewsbury and Chester. Airport transfers can be organised at an additional cost. The school is a 5-minute drive from a National Rail station.

IN COLLABORATION WITH

STEINWAY & SONS

Moreton Hall

FACULTY

Samantha Ward (UK)
Maciej Raginia (Poland)
Sam Armstrong (UK)
Marco Fatichenti (Italy)
Ivana Gavric (UK)
Aisa Ijiri (Japan)
Sibila Konstantinova (Bulgaria)
Annabelle Lawson (UK)
Mark Nixon (South Africa)
Luis Pares (Venezuela)
Melanie Spanswick (UK)
Vesselina Tchakarova (Bulgaria)
Grace Yeo (South Korea)

Programmes & Price List

Residential Standard	£1,685 (incl. 20% VAT)	All inclusive
Residential Intensive	£2,035 (incl. 20% VAT)	All inclusive
Non-residential Standard	£1,290 (incl. 20% VAT)	Full-time piano course only
Non-residential Intensive	£1,640 (incl. 20% VAT)	Full-time piano course only

pianoweek.com/moreton-hall-school-uk

Rugby School UK

The festival returns to Rugby School, the birthplace of Rugby football, for the second time in the summer of 2019, coinciding with the Rugby World Cup taking place in Tokyo, where PIANO WEEK will also be hosted in the spring. Spectacular evening concerts in the Memorial Chapel will accompany the course, which is open to pianists of any age and ability.

Based at the modern and brilliantly equipped Music School, this residency offers our participants an opportunity to study with a distinguished faculty of concert pianists in the most stimulating environment. Residential participants will enjoy modern single or twin bedrooms (both with separate bathrooms), cosy common rooms with TV and WiFi access and a few kitchenettes which are located on campus. All meals are provided and dietary requirements catered for. Motorway links provide easy access to Birmingham and London Heathrow international airports as well as East Midlands and Luton airports. Airport transfers can be organised at an additional cost.

18 - 25 Aug 2019

IN COLLABORATION WITH

STEINWAY & SONS

Rugby School Enterprises

FACULTY

Samantha Ward (UK)
Maciej Raginia (Poland)
Alexander Karpeyev (Russia)
Warren Mailley-Smith (UK)
Maiko Mori (Japan)
Mark Nixon (South Africa)
Roberto Russo (Italy)
Melanie Spanswick (UK)

Programmes & Price List

Residential Standard	£1,685 (incl. 20% VAT)	All inclusive
Residential Intensive	£2,035 (incl. 20% VAT)	All inclusive
Non-residential Standard	£1,465 (incl. 20% VAT)	Inclusive of lunch & dinner
Non-residential Intensive	£1,815 (incl. 20% VAT)	Inclusive of lunch & dinner

pianoweek.com/rugby-school-uk

Scuola Comunale di Musica di Foligno

Our residency in Foligno is based at Scuola Comunale di Musica, a beautiful building right in the heart of the old town. The course part of the festival forms an intensive programme of master classes, performances and one-to-one lessons, offering pianists an opportunity to study with a distinguished faculty of concert artists in the inspiring setting of this ancient town.

The main meeting point, the 12th century Piazza della Repubblica, houses the Cathedral San Feliciano and the Palazzo Trinci, the former home of the wealthy and art loving family, who made Foligno an important city in the 14th and 15th centuries. Today it is a bustling place filled with restaurants, bars and historical sites and hosting several of the most important festivals in the whole of Italy. Our residential participants will enjoy single en suite accommodation in Hotel Italia situated a short walk from the music school, as well as all meals served in the hotel's restaurant. Airport transfers from the regional San Francesco d'Assisi airport in Perugia and the Fiumicino international airport in Rome can be arranged at an additional cost.

14 - 21 Jul 2019

IN COLLABORATION WITH

Scuola Comunale di Musica
"Alessandro Biagini"
dal 1868 per la Formazione Musicale

FACULTY

Samantha Ward (UK)
Maciej Raginia (Poland)
Niel du Preez (South Africa)
Yuki Negishi (Japan)

Programmes & Price List

Residential Standard	£1,840 (incl. 22% VAT)	All inclusive
Residential Intensive	£2,190 (incl. 22% VAT)	All inclusive
Non-residential Standard	£1,345 (incl. 22% VAT)	Full-time piano course only
Non-residential Intensive	£1,695 (incl. 22% VAT)	Full-time piano course only

Sankt Goar Int Music Festival & Academy

DE

PIANO WEEK returns to Sankt Goar for the second time in 2019, situated in the midst of a UNESCO World Heritage Site on the banks of the Rhine river. Evening concerts held in a private villa will accompany the course, which is open to pianists of any age and ability. Surrounded by vineyards and woods, our residency in Sankt Goar gives participants a chance to enjoy this spectacular scenery alongside intensive coaching, master classes and performances.

Residential participants will enjoy modern twin bedrooms (with separate bathrooms) in the beautifully restored 1892 Gründerzeit villa in which the festival takes place. Guests will also have spacious and well-equipped kitchens at their disposal. Breakfast, lunch and dinner are served in the property. Sankt Goar is located within easy reach of Frankfurt Hahn and Frankfurt international airports – return transfers can be arranged at an additional cost. The town has its own rail station with services to Frankfurt, Mainz and Koblenz. Other cities which can be reached within a 90-minute drive include Cologne, Wiesbaden, Mannheim and Heidelberg.

4 - 11 Aug 2019

IN COLLABORATION WITH

SANKT GOAR INTERNATIONAL MUSIC FESTIVAL AND ACADEMY

FACULTY

Samantha Ward (UK)
Maciej Raginia (Poland)
Maiko Mori (Japan)
Madalina Rusu (Romania)

Programmes & Price List

Residential Standard	£1,785 (incl. 19% VAT)	All inclusive
Residential Intensive	£2,135 (incl. 19% VAT)	All inclusive
Non-residential Standard	£1,435 (incl. 19% VAT)	Inclusive of lunch & dinner
Non-residential Intensive	£1,785 (incl. 19% VAT)	Inclusive of lunch & dinner

pianoweek.com/sankt-goar-international-music-festival-de/

Symphony Salon

JP

PIANO WEEK returns to Tokyo for the second time in 2020 at Symphony Salon, right in the heart of the city. Experience Tokyo at its finest, just five minutes away from Otemachi, the very centre of Tokyo's subway network. You will be able to enjoy fine restaurants and cafes, as well as tourist attractions such as Kiba park with many museums, temples and shrines a stone's throw away.

Those attending PIANO WEEK Tokyo will be able to choose between our non-residential standard or half-time course options, boasting multiple masterclasses, one-to-one and duet lessons alongside coaching on harmony, memorisation and sight-reading among many other topics. All of the performances (participant and faculty evening recitals) will take place at Symphony Salon's in-house concert hall. The venue is located within easy reach of subway stations and is accessible from Narita international airport by bus, train or taxi. We are delighted to announce that in 2020 we are introducing two new programmes enabling pianists in the greater Tokyo metropolitan area to join the festival for one day or to pop-in for an individual master class on an ad hoc basis.

30 Apr - 5 May 2020

IN COLLABORATION WITH

SYMPHONY

FACULTY

Samantha Ward (UK)
Maciej Raginia (Poland)
Maiko Mori (Japan)
Yuki Negishi (Japan)

Programmes & Price List

Non-residential Standard	¥325,000 (incl. 8% CT)	Full-time piano course only
Non-residential Half-time	¥225,000 (incl. 8% CT)	Half-time piano course only
One Day Ad Hoc	¥80,000 (incl. 8% CT)	One day of tuition only
Ad Hoc Master Class	¥25,000 (incl. 8% CT)	Individual lesson only

pianoweek.com/symphony-salon-jp/

"A wonderful learning and social experience!"

Chris | Sydney

"Such fun and warm teachers" Caroline | New York

"I cannot recommend PIANO WEEK highly enough"

Stephanie | London

"It has been a truly fantastic experience to re-discover my lost skill"

Harini | London

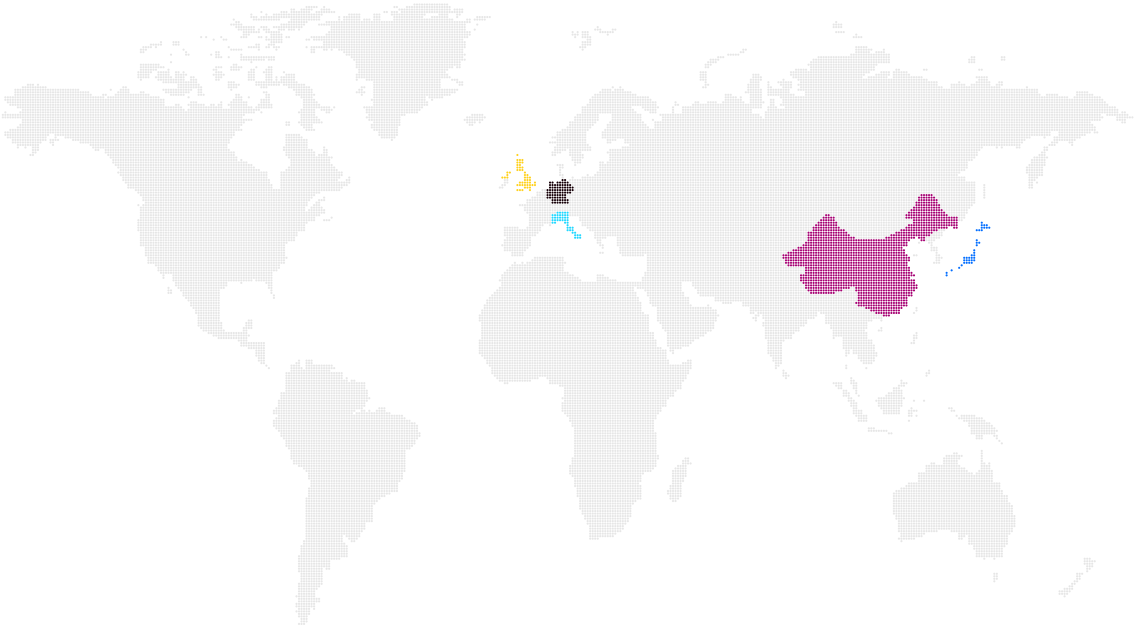
PHOTOGRAPHY: DANIELE CIFERRI

pianoweek.com/testimonials

INTERNATIONAL FESTIVAL & SUMMER SCHOOL

PIANO WEEK

WWW.PIANOWEEK.COM



UK ITALY GERMANY CHINA JAPAN